

日本図書館研究会 2024年度決算報告・2025年度事業計画予算案

2025年度事業計画等の 提案にあたって

理事長 原田 隆史

2025年もまた、国内外の情勢は予断を許さぬ状況が続いています。年初から、米国における政権交代の動向や、それに伴う関税政策の見直しが国際経済に波紋を広げ、為替やエネルギー市場にも影響を及ぼしています。世界的に分断的な言説が広がる中、日本にとっても外交や経済の在り方を再考する局面が続いています。一方、国内に目を転じると、エネルギー価格や物価の不安定な推移、生成 AI に象徴される技術革新の加速、そして格差や孤立といった社会的課題が、日々の生活においても重くのしかかっています。これらの変化は、日本社会が戦後長く維持してきた制度や慣習を再点検する契機ともなっており、各地で現行制度の見直しや、新しい取り組みの萌芽が見られるようになっていきます。

図書館界においても、こうした社会的な変化は確実に影響を及ぼしています。とりわけ人材の確保や雇用のあり方については、地域や運営母体によって異なるものの、多くの図書館が厳しい制約の中でサービスの継続に努めているのが現実です。正規職員の減少や非正規雇用の拡大といった傾向が進む中で、専門的な知見の継承や、業務の質をいかに安定的に支えていくかは、今後ますます重要な課題となっていくでしょう。多様な雇用形態が混在する現場において、それぞれの立場や役割を尊重し、協働的に図書館サービスを築いていく姿勢が求められていると感じます。

また、教育・行政を含む公共サービスの現場では、従来の一律的な提供では応じきれない多様なニーズが顕在化しています。図書館においても、利用者の言語的・文化的背景、認知特性、生活スタイルの多

様化に配慮した情報提供や空間設計が求められる場面が増えており、標準化と個別対応の両立が今後ますます問われることになるでしょう。

さらに2024年は、生成 AI に対する社会的関心が定着する一方、その活用方法や限界に関する認識も深まった一年でした。分類・選書・レファレンス支援といった分野において応用の可能性が模索される一方で、情報の正確性や出典の明示といった図書館的観点からの検証も必要不可欠であることが共有されつつあります。最新の状況を含むことができないという指摘があった AI に関しても、近年では Deep Research のようなサービスが始まっています。こうした技術の利用に際しては、図書館の根幹である「信頼できる知識とは何か」を問い直す姿勢があらためて重要になっていると感じます。



さて、日本図書館研究会の活動についてです。2024年度も引き続き厳しい財政状況のなかで、会の持続的な活動運営が課題となりました。会員数の減少傾向も続いており、今後の組織基盤の安定化が急務です。理事会では、経費削減と活動の質的維持・向上を両立させるため、運営の透明化、会員との対話機会の拡充、情報発信の強化など、さまざまな視点から検討を重ねております。昨年度は特に、評議員・理事の選出方法や組織構成も含めた幅広い視点から持続可能な会の枠組みづくりに向けた議論を開始いたしました。これは、100周年を見据えた長期的視点に立った重要な改革であり、会員の皆様のご理解とご協力を賜りたく存じます。

また、本会の事務局体制にも変化がありました。長年にわたり本会の実務を支えてくださった松井純子事務局長が昨年度をもって事務局長職を退任され、新たに前川敦子事務局長が着任されました。松井前事務局長には今後も引き続き理事として理事会の活動にご助力いただけることとなっており、これまでの実務経験と知見をもとに、引き続き当会の屋台骨としてお支えいただけることを心強く思っております。新体制のもと、日常業務の効率化と質的向上を目指し、内部体制の強化に取り組んでまいります。

活動面では、コロナ禍以降の経験を踏まえつつ、

研究集会や講演会を中心に、対面形式での開催を基本とするイベント運営が定着してまいりました。今後も対面の利点を生かしつつ、必要に応じた柔軟な形式での開催を継続してまいります。また、国際化の観点に関して国際図書館学セミナーという形での活動は一度その役割を終えましたが、図書館研究が国際的な視野で展開されるべきものであることに変わりはなく、今後はより実質的で柔軟な国際連携のあり方も検討していきたいと考えております。さらに、過年度の事業として調査を進めておりました『図書館界』バックナンバーのオープンアクセス化については、2024年度に調査と準備を行い、2025年度からの段階的公開に向けて、必要な準備が整いつつあります。制度的・技術的な検討を経たうえで、今後速やかに実施できるよう取り組んでまいります。

以下に掲載いたします各委員会・担当部門からの報告、事業計画および予算案等につきましても、ぜひご一読いただき、ご意見をお寄せいただければ幸いです。図書館が果たすべき役割は、変化する社会の中で常に更新され続けています。研究と実務を往還する本会の活動は、その変化に応答しつつ、図書館の本質的意義を再確認する場でもあります。会員の皆様とともに、私たちはこれからも知の公共性を支える仕事を共に担い、100周年に向けて実りある歩みを続けてまいりたいと存じます。

(はらだ たかし 八洲学園大学)

事業計画・予算案の提案説明

事務局長 前川 敦子

松井純子前事務局長に代わり、今期の事務局長を務めることになりました。微力ですが、皆様のお力を借りて精一杯努めてまいる所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

24年度収支決算、および25年度事業計画・予算案を説明します。

1. 2024年度決算

一般会計の《収入》では、残念ながら会員の減少傾向には変わりなく、25年4月時点で個人会員639名、団体会員285団体となり「会費」収入が予算を9万円下回りました。『界』売上げ（書店等を通じた『界』購読）「雑収入」「利息」は予算を上回り、「広告料」は予算と同額を確保しました。なお「雑収入」内訳の「学術著作権協会補償金」とは、2018年著作権法改正により創設された授業目的公衆送信補償金の分配を受けたものです。

この結果、**《収入》**全体の決算額は当初予算から微減(1.5万円減)となりました。

次に**一般会計の《支出》**です。

「会合費」「交通費」は、オンライン併用会議を増加したことなどから予算を下回りました(計39.2万円)。「研究助成費」では24年度もブロックセミナーが非開催となり、予算(20万円)が未執行となりました。「雑誌刊行費」は、予算を37.2万円下回る執行となりました。これは、予算を例年と同額で計上した一方、75巻6号の国際図書館学セミナー報告を特集ではなく概要報告としたことによるものです。

「組織強化費」では、昨年度改訂した「入会案内」パンフレットの追加印刷を行いました。「国際交流費」は特段の事業を実施しなかったことから未執行でした。「役員選挙費」は郵便料金の値上げにより、予算を1.7万円オーバーすることになりました。「事務局費」では、大阪府最低賃金改定による事務局員の時給値上げ、事務機器(シュレッター)の更新がありましたが、節減の努力もあり予算内に収まりました。

上記の結果、**一般会計**は単年度収支では赤字となります。次年度繰越金が90.8万円減り、176万円となりました。

特別会計に移ります。**《収入》**すなわち刊行物の売り上げ合計は、予算を約52万円下回りました。『情報資源組織法』『図書館資料の目録と分類増訂第5版』は堅実に売り上げましたが、他の売り上げが予想よりも低調であったためです。

特別会計の《支出》では、『界』週及的電子化のための調査費として計上した「出版調査費」は、テスト作業はほぼ完了していますが、一部作業が年度内に未完了であるため、執行を25年度に持ち越したものです。追加予算と合わせて25年度に電子化を

実施・執行予定です。「出版印刷費」のうち『情報資源組織法別冊実例集』（20万円）も24年度内には刊行せず、25年度に持ち越しました。その結果、『支出』は「出版印刷費（販促用チラシ）」「通信費」と選挙費用の一般会計への繰出しのみとなり、25年度への繰越金が1,871万円となりました。

第2特別会計（図書館研究奨励賞基金）は、24年度は残念ながら奨励賞該当者がなく（p.39参照）、『支出』の執行がありませんでした。

一般会計・特別会計とも、一部費目を除いて当初予算の枠内に収まっていますが、これは、節減に努め予算内に収めた成果でもある一方、計画した事業を年度内に十分展開できなかったことを表すものでもあります。研究会活動の活性化について考え、取り組む必要があります。

2. 2025年度事業計画（案）

事業計画（案）は大半が恒常的事業です。変更点を中心に説明します。

「2. 第67回研究大会、研究例会、特別研究例会の開催」では、久々にワークショップの開催を予定しています。「4. ブロックセミナー等の開催」でも、セミナーを開催予定です。「15. 『界』バックナンバーのオープンアクセス化の実施」では、24年度の調査・検討結果を踏まえ、『界』1～50巻の電子化及びJ-STAGEでの公開を実施予定です。（本事業の詳細については次号以降に改めてご報告します。）

3. 2025年度予算（案）

当会の**一般会計**は、特に近年の会員数減少に伴う会費収入減少が主な要因となり、一般会計収入だけで一般会計支出をすべて賄うのが厳しい状態となっています。現在、隔年で実施する「役員選挙費」や、『界』50号ごとに行う文献レビュー特集号分の「雑誌刊行費」は、その都度特別会計から必要額を繰り出して対応してきました。また事務所移転やパソコン更新・ホームページリニューアル等、臨時の出費が発生した際にも、特別会計から一般会計への繰出しで対応してきました。

特別会計は、出版事業を目的とする会計でありながら、過年度の刊行物売上げを原資とする繰越金（余剰金）が24年度末で1,900万円超あり、ここからの繰出しが一般会計の様々な事業の補填財源となって

います。

また**第2特別会計【図書館研究奨励賞基金】**は、故人の遺志による寄附を財源として1990年に創設され、その後有志の寄附等を併せて約300万円の基金となりました。さらに、1998年度に特別会計から刊行物売上げを原資とする700万円を繰り入れており、現在、繰越金が1,000万円超となっています。

こうした中、25年度予算案を作成するにあたり、基本的事業の安定実施、特別会計・第2特別会計の余剰金有効活用のため第3特別会計を新設します。併せて各会計の目的明確化、目的に沿った積極的な事業展開を行うため、以下のように取り扱うこととしました。

（1）一般会計

- ・基本的・一般的な事業に関する会計を扱う。

（2）特別会計【出版関係予算】

- ・出版や出版物に関する会計であることを明確にするため、【出版関係予算】と明示する。
- ・繰越金（余剰金）が多額であることから、25年度新設の第3特別会計の原資として700万円を繰り出す。

（3）第2特別会計【図書館研究奨励賞基金】

- ・従来通り図書館研究奨励賞に関する会計を扱う。
- ・なお1998年度に特別会計から繰り入れた700万円は、寄附者の遺志には関わらないことに鑑み、新設の第3特別会計の原資として700万円を繰り出す。

（4）第3特別会計【活動活性化・運営調整基金】

- ・25年度より新設。以下の目的に対し執行する。
- ① 日図研の活動活性化や会員増につながる事業への積極的支出
- ② 一般会計等の収支において、物価上昇や不測の支出等、「予備費」での対応も困難な場合の「調整基金」
- ・実際には一般会計への繰出しを経て執行する。
- ・特別会計とせず一般会計予備費に繰り入れる考え方もあったが、予備費としては額が大きいこと、使途が可視化できることから、特別会計とした。
- ・従来特別会計から繰り出していた「役員選挙費」、『界』450号文献レビュー特集号「雑誌刊行費」（2026年度予定）、その他一般会計の収入不足補填は、第3特別会計から一般会計に繰り出す。

上記の変更を踏まえ、25年度予算案についてご説

明します。

一般会計《収入》の中心である「会費」は、個人会員・団体会員とも24年度より件数を減らして予算化しました。学生会員は24年度と同じです。「広告料」は変更なし、「雑収入」「利息」は24年度実績をもとに上積みしました。次項**《支出》**にある通り節減可能な費目ではできるだけ抑えて予算を立てていますが、基本の活動経費及び一定の予備費を確保する必要から、**第3特別会計**から60万円の調整基金繰入れを行うこととしました。

一般会計《支出》では、現在オンライン／集会形式を併用開催している理事会の一定回数を完全オンライン開催とすることで「交通費」を節減しました。また「研究助成費」では久々に開催予定のワークショップ経費として2万円を増額しました。「研究調査費」は、研究グループ助成を申請した7グループに助成を行います。24年度よりも申請グループ数・金額が減少したため予算額が減額になっています。「雑誌刊行費」は24年度同様、表紙を含めて年間420ページで予算化しました。「通信費」は24年度決算額を踏まえ、低く見積もっています。「事務局費」は必要金額を精査し、備品等の買い替えを含めながら24年度とほぼ同額になりました。

上記の結果、予備費を除く一般会計**《支出》**合計は915万円(昨年度から94万円減)となりました。会費収入と『界』売上げを中心とする収入だけでは支出を賄えない状況であり、前年度繰越金及び**第3特別会計**からの繰入金に支えられる予算案とならざるを得ません。**第3特別会計**の基金活用を視野に入れつつ、財政健全化が急務となっています。

次に**特別会計【出版関係予算】**です。**《収入》**では、『情報資源組織法』の着実な売り上げ増を見込んだ案となっています。『日本図書館研究会の75年』『塩見昇の学校図書館論』は24年度実績を鑑みた設定としました。『図書館資料の目録と分類 増訂第5版』は完売により以後増刷はせず絶版とします。**《支出》**では、「出版調査費」として『界』バックナンバーの週及的電子化を本格実施します。24年度未執行の50万円に加え、新規に170万円、計220万円を支出します。また「出版物印刷費」では『情報資源組織法別冊実例集』刊行に20万円を計上しています。また p. 35に記載の通り、**第3特別会計**に700万円を繰り出します。

第2特別会計【図書館研究奨励賞基金】は、《収

入》は例年と大きな変更はありません。**《支出》**では特別会計と同じく、p. 35に記載の通り**第3特別会計**に700万円を繰り出します。

新設の**第3特別会計【活動活性化・運営調整基金】**は、**《収入》**では特別会計・第2特別会計からの繰入れが合計1400万円、**《支出》**では一般会計への繰出しが60万円、予備費1,340万円となります。

* * * * *

第3特別会計【活動活性化・運営調整基金】の目的は、当会のミッションと会員のニーズに沿った活動活性化と、持続的・安定的活動を支える財政基盤の構築にあります。当会の活動活性化を考えるにあたっては、会員の皆様の参画が不可欠となります。

ここに掲げた決算報告、事業計画・予算案の審議と承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さんの声をできるだけ反映させたいと思います。メール、FAX 等でぜひご意見をお寄せください。当会の運営や行事についての感想・要望等でも結構です。

送付先:事務局 nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限:6月2日(月) 必着

※2025年度評議員会:6月8日(日) 同志社大学

(まえかわ あつこ 関西外国語大学)

会員とともに歩む 『図書館界』を めざして

編集委員長 石川 敬史

あつという間の2年間——2023年4月に編集委員長という大役を仰せつかり、まさに走りながら考え続けた1期2年でした。引き続きまして、今期より再び2年間、編集委員長を拝命いたしました。日本図書館研究会の歴史、そして『図書館界』を支えてくださった歴代編集委員長、編集委員の皆様のご尽力を振り返りますと、この重責に改めて身が引き締まる思いです。この間、嶋田学・副委員長、前川

敦子・前委員長をはじめ、経験と実績のある編集委員の皆様より多大なるお力添えをいただきました。同時に、多くの会員の皆様より、ご支援とご指導を賜りました。この2年間、会員の皆様とともに歩む『図書館界』であることを痛感する日々でした。至らない点多々あるかと存じますが、充実した『図書館界』を目指していきたいと考えております。引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

はじめに、昨年度(2024年度)の『図書館界』(76巻)の構成を報告いたします。

- ・《研究ノート》4本
- ・《現場からの提言》1本
- ・《特集・第65回研究大会》グループ研究発表7本、基調報告1本、報告4本、討議
- ・《特集・2024年度図書館学セミナー》報告4本、質疑応答
- ・《特集・誌上対話》「地域社会において公共図書館が担うべき役割と責任：実践と研究をつなぐ誌上対話」8本
- ・《解説・HOT TOPICS》「自然災害と図書館」4本
- ・《エコー》2本
- ・《書評》9本、《新刊紹介》4本
- ・《追悼》石塚栄二さん2本、志保田務さん2本

編集委員会は、昨年度も6回の会議を開催し、投稿論文の査読結果や、特集等の誌面構成の検討を重ねました。『図書館界』へ投稿いただいた会員の皆様、《特集・誌上対話》をはじめ、書評や新刊紹介への執筆依頼に快く応じてくださった皆様へ、心より御礼申し上げます。

続いて本年度の編集委員会の計画です。

1. 《論文》・《研究ノート》・《現場からの提言》

『図書館界』の核は、会員の皆様による研究や実践に基づいた投稿論文です。「『図書館界』原稿種別の定義」のうち査読の対象となるものは、《論文》、《研究ノート》、《現場からの提言》です。昨年度中に投稿いただいた本数は10本でした。このうち採録(今後の掲載分も含む)は4本、査読中・手続き中等(3月末現在)は6本です。とりわけ、これまで投稿が少なかった《現場からの提言》へは、昨年度3本の投稿がありました。

『図書館界』は査読があり、敷居が高いという印

象があることと思います。本会の特長は、「館種をこえた会員構成」であり、「研究と実践の往復」といえます。『図書館界』は、教育・研究はもとより、会員の皆様の問題意識の共有、図書館現場における報告・調査研究の発表の場でもあります。編集委員一同、引き続きまして会員の皆様による積極的な投稿をお待ちしています。

2. 特集・連載

2023年度(75巻3号)より《特集・誌上対話》「地域社会において公共図書館が担うべき役割と責任：実践と研究をつなぐ誌上対話」がスタートいたしました。昨年度は編集委員会からの依頼と投稿をあわせて8本もの論考を掲載することができ、「誌上」の「対話」が大きく展開しています(2023年度は3本)。そして本号(77巻1号)からは、1,000~1,500文字前後でご意見や感想をお寄せいただけるよう「誌上対話を読んで」を開設いたしました。この《特集・誌上対話》の主旨や論点については、75巻3号(2023年9月)や76巻4号(2024年11月)に掲載されていますので、ご参照いただきまして、会員の皆様による積極的な投稿をお待ちしています。

また、2020年度に開始した「解説 HOT TOPICS」は6年目を迎えます。今年度はまだ仮のテーマですが、デジタル・シティズンシップ教育や健康医療情報の提供などを射程に入れ、「図書館は何ができるのか?」という方向性にて検討しています。

なお、本年度も2号(7月)には《特集・第66回研究大会》として「これからの図書館と書店との関係はどうあるべきか」、そして6号(3月)には《特集・2025年度図書館学セミナー》の掲載を予定しています。

3. 《書評》・《新刊紹介》・《エコー》

昨年度は《書評》9本、《新刊紹介》4本を掲載いたしました。一昨年度と比較すると、《新刊紹介》の本数が少なくなりましたが、多様な書き手の発掘を意識しながら、「図書館・図書館情報学及び関連領域」に関する書籍等をこれまで通り掲載していきたいと考えています。編集委員会より執筆依頼がありましたら、ご協力をよろしくお願いいたします。もちろん《書評》の投稿も歓迎です。

また《エコー》につきましては、「『図書館界』原稿種別の定義」にて、「日本図書館研究会への意見・

感想・要望、質問、また図書館界に関する話題・情報提供など、会員からの声を表明する場とします」としています。昨年度は2本、そして本号(77巻1号)では1本の掲載がございました。情報提供や会員間の意見交換の場としてご活用ください。

4. その他

来年度のことになりますが、2026年9月(78巻3号)に『図書館界』は450号を迎えます。改めて『図書館界』が積み重ねた歴史を痛感いたします。この450号につきましては、前回の400号(2018年6月)と同様に、50号毎(約8年半)の文献レビューという方法によって、多くの執筆者のご協力をいただき、図書館界の動向や課題、展望を掲載する予定で考えています。本年度より450号刊行のための準備を進めて参ります。

『図書館界』の編集委員は、図書館に勤務する会員や大学教員の会員から構成されています。編集委員一同、日常の本務を抱えながらの編集作業を担いますが、なんとか年6回の刊行を維持し、『図書館界』の充実に努めてまいります。会員の皆様からのご支援を賜りたく、重ねてよろしくお願い申し上げます。

(いしかわ たかし 十文字学園女子大学)

研究委員会の 主な事業について

研究委員長 日置 将之

2024年度は、研究大会では「図書館と書店との関係」、図書館学セミナーでは「生成AIと図書館」をテーマとしたシンポジウムを開催し、好評を得ました。また、研究例会についても、公共、学校、大学図書館の各館種のほか、米国の図書館事情など、幅広いテーマで実施しました。今年度も当会ならではの研究事業を実施したいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

以下、会員間の研究成果の発表・交流・学習等の場として、研究委員会が今年度担当する主な事業をご紹介します。

1. 研究大会の開催

2025年度(第67回)研究大会は、2026年2月～3月頃に2日間の日程で開催する予定です。例年と同様、1日目は個人会員と研究グループの研究発表を行い、2日目のシンポジウムは図書館に関する重要なテーマを設定して論議を行いたいと考えています。

大会のお知らせは、本誌77巻3号(9月)に個人発表等の募集を、4号(11月)に大会予告を、5号(1月)に正式な大会案内を掲載する予定です。また、本会のウェブサイトやXアカウント等でも随時ご案内します。

2. 研究例会・特別研究例会の開催

日常的な研究・活動報告の場として年間8回程度開催しています。会員・非会員を問わず参加可能とし、広く開かれた形での開催です。発表に関心がある会員はぜひご連絡ください。なお研究グループは、研究成果の公開を、研究大会のほか、研究例会での発表で行うことも可能です。

特別研究例会は、評議員会の日程にあわせて午前中に開催します。今年度は、本号 p. 40 に記載のとおり、6月8日(日)に同志社大学(京都市)にて永利和則氏(福岡女子短期大学特任教授)をお招きして開催する予定です。

3. 図書館学セミナーについて

図書館学セミナーは、時流に沿った関心の高いテーマを設定して討議する場として開催しています。今年度は、10月又は11月に1日の日程で開催する方向で準備を進めています。詳細は、77巻3号(9月)にてご案内します。

4. グループ研究への助成

会員の皆様は、地域又は研究テーマごとに研究グループを組織することができます。また、会員7名以上から構成される研究グループについては、研究委員会で審査し、理事会での承認を得た上で、原則として年3万円を2年間にわたり助成しています。助成を受けた研究グループには、研究大会や研究例会、本誌誌上などでの研究成果の報告をお願いして

います。研究グループの参加は全ての会員に開かれていますので、既存研究グループへの参加や新たな研究グループの結成については、各研究グループの連絡先や研究委員会にご相談ください。

5. お願い

研究大会・例会等のテーマや発表者についてご希望がありましたら、研究委員会までお知らせください。また、研究大会・例会等の講師のお願い・会場提供のご相談をさせていただくことがありますので、よろしくお願いいたします。研究活動の伸展のため、ご協力いただけると幸いです。

(ひおき まさゆき 大阪府立中之島図書館)

図書館研究奨励賞

未完であっても可能性のある 研究者を支援します

図書館研究奨励賞選考委員会
委員長 常世田 良

日本図書館研究会図書館研究奨励賞は、故森耕一理事長が設立された基金とその後の寄附等により1990年より30年以上にわたり運営されてきました。賞の名称にあるように「研究」の方向性、意義等を評価して「奨励」することが目的ですので、論文そのものの完成度を評価するのではなく、若手研究者、あるいはこれまで研究結果の公表機会に恵まれなかった方、またアカデミックな環境にある方々のみならず図書館現場で勤務されている方々など、いわゆるベテラン研究者以外の方々の「研究」内容を評価対象といたします。

具体的には日本図書館研究会の機関誌『図書館界』において査読を経て掲載された「論文」、「研究ノート」、「現場からの提言」が評価対象となります。学術論文としての体裁が考慮されない「研究ノート」、「現場からの提言」が評価対象となるのは前述の本賞のコンセプトによるためです。特にベテラン研究者以外の若手・中堅の書き手に注目し、その「研究」が有する伸びしろや図書館界を刺激する新鮮な要素を見出す役割を持ちたいと考えています。当該研究

分野の発展性に寄与できる可能性を尊重し、賞を贈るという役目を担いたいと思います。

そのためには活発な投稿が必要となります。研究者はもちろんのこと、各種の図書館現場において日々の図書館活動に邁進されている方々は、往々にして多忙で時間に余裕がないと思われますが、何とか著作に勤しんでいただきたいと思います。特に若手の方々に期待いたします。コロナ禍を経て、あるいはデジタル化の進捗で、われわれ図書館関係者は図書館のサービスの在り方に見直しが必要だという事実を突き付けられています。利用者を支え、また利用者に支えられる図書館界に生きる図書館関係者である会員の皆さまからの『図書館界』への投稿の増加を望みます。

奨励賞を授与させていただくことにより未来の研究や職場での実践に後押しができることになれば、こんな嬉しいことはありません。可能性のある研究者に図書館研究奨励賞を贈り、皆様とともに授賞者を讃えることを楽しみにしたいと思います。

当委員会の活動スケジュールは、例年通り概ね以下のとおりです。

5月『界』5月号 前年度授与報告、年間予定掲載
6月あるいは7月の理事会にて、選考委員会構成（外部委員含む5名）の承認

11月『界』11月号に、案内記事掲載、自薦、他薦募集開始

12月推薦締切

1月委員の評価締切、候補者決定

2月理事会において「受賞者」承認

2月あるいは3月研究大会初日、委員長から選評報告、理事長より奨励賞表彰状、副賞10万円（佳作の場合5万円）授与、受賞者挨拶

今年度（2025年度）の選考対象は、『図書館界』2023年11月号（75巻4号）から2025年9月号（77巻3号）までに掲載されたもの（詳細については、研究会ホームページ「図書館研究奨励賞」を参照）。

(とこよだ りょう)

ブロックセミナー2025

ブロックセミナー担当
川崎 千加・谷合佳代子

コロナ禍を挟んでここ数年ブロックセミナーは開催されていませんでしたが、今年度は久々に開催希望があり、その具体化を進めていきます。

ブロックセミナーを経験したことのない会員もいらっしゃるかもしれません。ブロックセミナーは、会員のみならず住民や市民団体が参加されるなど、様々な視点から地域と図書館を考える機会となりました。研究者と現場の図書館員が共に図書館について語れる、様々な館種の会員が参加していることも日図研の特色です。各地域で気軽に足を運んで、図書館をテーマに議論できる場を設ける。最新の研究成果に接することができる講演会を開催する。セミナーという言葉にとらわれず、地域の図書館員との交流を図る座談会を開くなども考えられます。開催にかかわる経費は、原則として全額を日図研が負担します。

人との繋がりや研修は図書館員にとって大切なものです。ブロック単位では広すぎて難しいという声も聞きます。対面開催が難しい地域では、オンラインでの開催も可能です。各地域の図書館や図書館に関わる人々との交流の場、図書館について考え、語り合う場が持たれ、各地の図書館の活動が活発になることを願っています。

ブロックセミナーは会員の希望によって開催されます。企画については、担当理事の川崎・谷合がご相談に応じます。まずは気軽に下記、事務局あてにご連絡ください。ブロックセミナーの開催要項等の詳細はホームページに掲載しています。

<https://www.nal-lib.jp/block-seminar/>

連絡先：日本図書館研究会事務局

電話：06-6225-2530

(月・木曜13時～17時)

E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

(かわさき ちか 京都産業大学)

(たにあい かよこ エル・ライブラリー(大阪産業労働資料館))



留学生への『図書館界』 無料頒布について

本会では、図書館情報学を学ぶ大学院留学生に『図書館界』の無料頒布を行っています。国際交流の一環として、図書館研究や図書館の理解に役立ててもらいたいという趣旨です。

2025年度も下記の要領で実施しますので、当者は、大学院の指導教員を通じて本会事務局までお申し込みください。大学院生を指導される教員で該当する院生がおられる先生は、院生に声かけのうえ、本会にご連絡ください。

記

- 1) 対象者は、日本で図書館情報学を学ぶ大学院留学生で、向こう1年間の在学や研究が確定している者です。
- 2) 申込は、本会の会員である指導教員よりお申し込みください。
- 3) 『界』各号を当該留学生に直接送付します。2025年度は『界』77巻1号～6号(2025年5月号～2026年3月号)です。
- 4) 所定の申込用紙やその他の詳細については、本会事務局(下記)までお問い合わせください。

E-mail：nittoken@ray.ocn.ne.jp

◆『図書館界』オープンアクセスのご案内◆

『図書館界』は、J-STAGE(科学技術振興機構)で全文を公開しています。(51巻1号、1999年5月号～最新号)。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/toshokankai/-char/ja/>

刊行後1年間はエンバーゴ(公開猶予)期間ですが、個人会員の皆さまは、当会が発行するID(購読者番号)とパスワードを使用して、エンバーゴ期間中の号も記事全文を閲覧・ダウンロードできます。

刊行後1年を経た号は、オープンアクセスとして、誰でも無料でインターネットから閲覧できます。

ID、パスワードは全会員にもれなくお知らせしておりますが、お忘れの方はメールにて本会事務局までお問い合わせください。

メールアドレス：nittoken@ray.ocn.ne.jp

2024年度一般会計決算報告

《収 入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	2,669,879	2,669,879	
会 費	5,780,000	5,690,000	個人5,000円×622人=3,110,000円 (23年:17人, 24年:456人, 25年:143人, 26年:6人) 学生3,000円×10人=30,000円 団体8,500円×300=2,550,000円 (23年:85, 24年:212, 25年:3)
『界』売上げ	1,250,000	1,268,500	6,800円×185=1,258,000円 バックナンバー 抜刷代
広 告 料	264,000	264,000	
雑 収 入	10,000	44,131	寄附 事務所使用料 学術著作権協会補償金15,511円
利 息	20,000	42,809	定期預金・普通預金
特別会計から繰入れ	400,000	400,000	2025-2026年度役員選挙
合 計	10,393,879	10,379,319	

《支 出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
会 合 費	300,000	215,830	研究委員会 編集委員会
交 通 費	1,030,000	721,860	理事会 評議員会 会計監査
研 究 調 査 費	350,000	346,402	原稿料 研究グループ助成
研 究 助 成 費	750,000	489,862	研究大会・研究例会・セミナー 特別研究例会 Zoom アカウント
雑 誌 刊 行 費	4,300,000	3,927,275	75巻6号~76巻5号 J-STAGE 掲載費
組 織 強 化 費	50,000	23,578	入会案内2024(4000部)
印 刷 費	50,000	35,640	『界』送り状
国 際 交 流 費	30,000	0	
役 員 選 挙 費	400,000	416,626	切手代・後納郵便料金代 開票作業 交通費 会員名簿・投票用紙等印刷 費
通 信 費	650,000	416,364	『界』郵送費 電話代
払 込 料 負 担 費	10,000	4,098	業者払込料負担金 振込料
消 耗 品 費	50,000	35,358	コピー用紙 プリンター用ラベル プリンターインク 封筒 ほか
事 務 局 費	2,120,000	1,985,394	人件費 交通費 事務所借用料 光 熱水費 レンタルサーバ シュレッ ダー
予 備 費	303,879	0	
小 計	10,393,879	8,618,287	
次年度への繰越金	0	1,761,032	
合 計	10,393,879	10,379,319	

2024年度特別会計決算報告

《収 入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	18,238,679	18,238,679	
情 報 資 源 組 織 法	500,000	700,120	464冊
図書館資料の目録と分類 増 訂 第 5 版	40,000	87,285	96冊 ※売り切れ
日本図書館研究会の75年	500,000	50,160	14冊
塩見昇の学校図書館論	500,000	123,729	51冊
そ の 他	20,000	81,692	25冊(図書館・図書館学の発展12, ひかり号5, 本をどう選ぶか2, こ うすれば利用がふえる1, 公立図書 館の役割を考える1, レファレンス ワーク1, 研究大会予稿集バックナ ンバー3)
合 計	19,798,679	19,281,665	

*利息は一般会計に一括して計上されている

《支 出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
出版編集会合費	20,000	0	
出版編集費	30,000	0	
出版印刷費	200,000	3,410	販促チラシ
出版調査費	500,000	0	
通 信 費	200,000	165,327	書籍送付用宅急便 レターパック・切手
一般会計へ繰出し	400,000	400,000	2025-2026年度役員選挙費
予 備 費	18,448,679	0	
小 計	19,798,679	568,737	
次年度への繰越金	0	18,712,928	
合 計	19,798,679	19,281,665	

2024年度第2特別会計決算報告

【図書館研究奨励賞基金】

《収 入》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
前年度よりの繰越金	10,256,334	10,256,334	基金1,000万円
利 息	20,000	30,130	定期預金・普通預金
合 計	10,276,334	10,286,464	

《支 出》

項 目	予 算 額	決 算 額	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	0	奨励賞該当者なし
事 務 費	5,000	0	
予 備 費	10,171,334	0	
小 計	10,276,334	0	
次年度への繰越金	0	10,286,464	
合 計	10,276,334	10,286,464	

2024年度監査報告

2025年3月27日、日本図書館研究会事務局において会計監査を実施しました。その結果は以下のとおりです。

- 1) 収入および支出に関する帳票・領収書類は、よく整理され、かつ記載事項に誤りがなく、会計事務は適正であると認める。
- 2) 財政に関しては、限られた収入の中で、事務局、理事会、各委員会など関係者による節約や工夫により適正な執行がなされている。個人会員・団体会員ともに長期にわたり漸減傾向が続いており、これに伴い会費収入も漸減傾向にある。現状は支出面での節減努力により「収支の均衡」がほぼ保たれているが、今後に備えて入会者の獲得や出版物の販売など、収入の確保に一層努力されるよう期待する。
- 3) 事務局にあるパソコンやプリンター等について、事務作業に支障が出ないように機器類の更新を適宜行えるように計画的に準備していくことが必要であろう。
- 4) 『図書館界』の75巻3号(2023年9月)から掲載が開始された「誌上対話 地域社会において公共図書館が担うべき役割と責任～実践と研究をつなぐ誌上対話～」は76巻5号(2025年1月)まで10編の論考が掲載されており、編集委員会の積極的な姿勢は大いに評価される。
- 5) 本会活動の要である研究活動は、担当である研究委員会を中心に研究大会、図書館学セミ

ナー、研究例会を通して現今の様々なテーマについて確実に実行されていることは評価される。今後も会員の希望するテーマに配慮するとともに、遠隔地の会員も参加できるようにオンライン開催にも積極的に対応していくことを期待する。

- 6) 2019年度に「役員選挙制度検討委員会」として発足し、2023年度から「組織検討委員会」へと改組され、組織改革の検討が始まって6年が経過した。地域ブロック制や評議員のあり方など組織の根幹に係わる問題であり、また理事が2年毎に交代するという事情もあるが、これまでの論議の到達点を整理し、理事会、評議員会など年間のスケジュールを十分に勘案しながら今期中(2025年度～2026年度)には具体の改革を目指していただきたい。
- 7) ブロックセミナーが今年度も開催出来なかったことは残念である。地方の会員にとって全国的な動向を身近に知ることができる機会であり、このセミナーの意義を再度確認して、評議員に過度な負担がかからないような実現方策を見出し、出していきたい。

以上、報告します。

2025年3月27日

監事 西村 一夫[㊞]

前田 章夫[㊞]

決算報告、事業計画・予算案にご意見をお寄せください

本号掲載の2024年度決算報告、2025年度事業計画・予算案の審議・承認は評議員会の役割ですが、会員の皆さまの声を聴き、審議に反映させたいと思います。当会の運営や行事についてのご意見・ご要望でも結構ですので、ぜひそれらをメール・FAX等でお寄せください。

送付先：事務局 nittoken@ray.ocn.ne.jp

送付期限：6月2日(月) 必着

評議員会日時：6月8日(日) 13:00～16:30

〃 会場：同志社大学新町キャンパス

2025年度事業計画(案)

〈研究活動〉

- 『図書館界』77巻1～6号の編集・発行
- 第67回研究大会, 研究例会, 特別研究例会の開催
- 図書館学セミナーの開催
- ブロックセミナー等の開催
- 図書館・図書館学関係図書の出版

〈研究の奨励と会の拡大に関わる活動〉

- 地域における研究活動の支援
- 障害者会員への対応
- 図書館研究奨励賞の授与

- 国際交流の推進(上海市図書館学会との学術交流, 論文の相互掲載ほか)
- 会員・研究グループの研究活動への助成
- 留学生への『図書館界』の無料頒布
- 会員および購読者の拡大
- ホームページの維持・更新
- 『界』オープンアクセス事業(J-STAGE)の継続
- 『界』バックナンバーのオープンアクセス化の実施

〈その他〉

- その他本会の目的にそった事業

2025年度一般会計予算(案)

〈収 入〉

項 目	24年度予算	25年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	2,669,879	1,761,032	
会 費	5,780,000	5,510,000	個人 5,000円×620人=310万円 学生 3,000円×10人=3万円 団体 8,500円×280=238万円
『界』売上げ	1,250,000	1,250,000	6,800円×180=122.4万円
広 告 料	264,000	264,000	
雑 収 入	10,000	20,000	事務所使用料, 寄附・カンパ ほか
利 息	20,000	30,000	定額預金・普通預金
特別会計から繰入れ	400,000	0	
第3特別会計から繰入れ	0	600,000	活動活性化・運営調整基金
合 計	10,393,879	9,435,032	

〈支 出〉

項 目	24年度予算	25年度予算	備 考
会 合 費	300,000	300,000	研究委員会10万円 編集委員会20万円
交 通 費	1,030,000	660,000	理事会25万円 評議員会40万円 会計監査1万円
研 究 調 査 費	350,000	330,000	原稿料8万円 研究グループ助成25万円
研 究 助 成 費	750,000	775,000	研究大会・セミナー・研究例会50万円 WS 2万円 ブロックセミナー20万円 特別研究 例会3万円 Zoom アカウント2.5万円
雑 誌 刊 行 費	4,300,000	4,300,000	8,800円×420頁×1.1=406.56万円 J-STAGE 搭載委託費2,850万円×74件× 1.1=23.2万円
組 織 強 化 費	50,000	30,000	
印 刷 費	50,000	50,000	『界』送り状 ほか
国 際 交 流 費	30,000	30,000	
役 員 選 挙 費	400,000	0	
通 信 費	650,000	500,000	『界』郵送料 切手代 電話代 ほか
払 込 料 負 担 費	10,000	10,000	業者払込料負担金 ほか
消 耗 品 費	50,000	50,000	事務用封筒 プリンター用ラベル プリンター用インクボトル コピー用紙 ほか
事 務 局 費	2,120,000	2,115,000	人件費1150円×6h×(10+1)日×12か月=91.1万円 交通費1500円×(10+1)日×12か月=19.8万円 事務所借用料6.5万円×12=78万円 光熱水費10万円 サーバレンタル料2.5万円 FAX 電話・プリンター買い換え10万円
小 計	10,090,000	9,150,000	
予 備 費	303,879	285,032	手話通訳10万円 ほか
合 計	10,393,879	9,435,032	

2025年度特別会計予算(案)【出版関係予算】

《収 入》

項 目	24年度予算	25年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	18,238,679	18,712,928	
情報資源組織法	500,000	800,000	
図書館資料の目録と分類 (増訂第5版)	40,000	0	売り切れ／絶版
日本図書館研究会の75年	500,000	50,000	
塩見昇の学校図書館論	500,000	50,000	
そ の 他	20,000	20,000	移動図書館ひかり号 ほか
合 計	19,798,679	19,632,928	

※利息は一般会計に一括して計上されている

《支 出》

項 目	24年度予算	25年度予算	備 考
出版編集会合費	20,000	20,000	
出版編集費	30,000	50,000	
出版物印刷費	200,000	200,000	情報資源組織法別冊実例集 20万円
出版調査費	500,000	2,200,000	『界』週及的電子化(Vol.1-50) 委託費
通 信 費	200,000	200,000	刊行物送料 ほか
一般会計へ繰出し	400,000	0	
第3特別会計へ繰出し		7,000,000	活動活性化・運営調整基金
小 計	1,350,000	9,670,000	
予 備 費	18,448,679	9,962,928	
合 計	19,798,679	19,632,928	

2025年度第2特別会計予算(案)【図書館研究奨励賞基金】

《収 入》

項 目	24年度予算	25年度予算	備 考
前年度よりの繰越金	10,256,334	10,286,464	基金1,000万円
利 息	20,000	30,000	定期預金・普通預金
合 計	10,276,334	10,316,464	

《支 出》

項 目	24年度予算	25年度予算	備 考
奨 励 賞 副 賞	100,000	100,000	
事 務 費	5,000	5,000	
第3特別会計へ繰出し		7,000,000	活動活性化・運営調整基金
予 備 費	10,171,334	3,211,464	
合 計	10,276,334	10,316,464	

2025年度第3特別会計予算(案)【活動活性化・運営調整基金】

《収 入》

項 目	25年度予算	備 考
特別会計より繰入れ	7,000,000	
第2特別会計より繰入れ	7,000,000	
合 計	14,000,000	

《支 出》

項 目	25年度予算	備 考
一般会計へ繰出し	600,000	
予 備 費	13,400,000	
合 計	14,000,000	

2025—2026年度役員選挙結果報告

選挙管理委員長 藤井 兼芳

このたび実施された2025-2026年度役員選挙の開票結果を、以下のとおり報告いたします。

投票期限は2月1日(土) 消印有効、開票作業を2月11日(火・祝)に行いました。投票概況は下記のとおりです。

当選には3票以上の得票が必要ですが、すべての役職・ブロックで投票が成立しましたので、再投票は行われませんでした。また、得票が同数の場合は、役員選挙規定により、会員番号の早い順に当選となります。投票くださった会員の皆さまに、厚くお礼申し上げます。

なお、すべての役員の任期は、推薦理事を含め、2025年4月1日～2027年3月31日です。

【投票概況】 個人会員数(有権者数) 642名 投票者数 353名(うち消印無効4名、その他2名)

有効投票者数 347名 投票率 54.0%(前回53.5%)

		北海道	東 北	関 東	北 陸	東 海	近 畿	中 国	四 国	九 州	計
今 回	会員数	15	20	189	21	50	268	34	14	31	642
	投票数	10	10	95	15	29	148	19	9	12	347
	投票率	0.67	0.5	0.50	0.71	0.58	0.55	0.56	0.64	0.39	0.54
前 回	会員数	18	22	190	21	56	282	36	15	29	669
	投票数	9	12	86	17	25	159	23	12	15	358
	投票率	0.5	0.55	0.45	0.81	0.45	0.56	0.64	0.8	0.52	0.535

【理 事】 定数 10名

当 選	嶋田 学	225票
当 選	原田 隆史	194票
当 選	日置 将之	169票
当 選	松井 純子	164票
当 選	前川 敦子	148票
当 選	石川 敬史	147票
当 選	呑海 沙織	145票
当 選	常世田 良	138票
当 選	谷合佳代子	136票
当 選	井上 昌彦	129票※
次 点	是住久美子	129票※
	赤澤 久弥	122票
	今野 創祐	119票
	川崎 千加	115票
	澤谷 晃子	95票
	久野 和子	90票
	河西 聖子	87票
	岡野 裕行	73票
	(以下略)	

※得票数が同数の場合は、会員番号の早い順に当選

【監 事】 定数 2名

辞 退	川崎 良孝	117票
当 選	逸村 裕	92票
当 選	西村 一夫	91票
次 点	山口源治郎	80票
	松井 純子	77票
	前田 章夫	75票
	和中 幹雄	53票

【評議員】 定数 21名

第1区 北海道(定数1名) 投票者10名

当 選	下田 尊久	7票
次 点	高木 真美	1票 ※3票に満たず
	持田 誠	1票 〃
	渡邊 重夫	1票 〃

第2区 東 北(定数1名) 投票者10名

当 選	加藤 孔敬	8票
次 点	柴崎 悦子	2票 ※3票に満たず

第3区 関 東(定数5名) 投票者95名

当 選 南 亮一 72票

当 選 三浦 太郎 58票

当 選 小池 信彦 55票

当 選 今野 創祐 29票

当 選 立花 明彦 29票

繰り上げ当選 青野 正太 28票※

次 点 井上 奈智 28票※

宮原志津子 27票

成松 一郎 21票

叶多 泰彦 16票

渡辺百合子 14票

(以下略)

※得票数が同数の場合は、会員番号の早い順に当選

第4区 北 陸(定数1名) 投票者15名

当 選 宮川 陽子 11票

次 点 奥山 智靖 3票

第5区 東 海(定数2名) 投票者29名

当 選 鈴木 崇文 15票

当 選 山本 昭和 14票

次 点 是住久美子 11票

家禰 淳一 9票

岡野 裕行 5票

第6区 近 畿(定数6名) 投票者148名

当 選 村林 麻紀 62票

当 選 今野 千束 55票

当 選 佐藤 悠 52票

辞 退 岡田 大輔 45票

当 選 福井 佑介 44票

当 選 鎌田 均 43票

当 選 小村 愛美 42票

次 点 坂下 直子 37票

徳田 恵里 36票

中野ひかる 35票

藤間 真 34票※

二井 治美 34票※

栗生 育美 31票

前田 笑 27票

荒木のりこ 24票

三浦 寛二 23票

<推薦理事へ>

次ページ「評議員の繰り上げ当選について」を参照

生駒 彩子 22票

川上 綾 20票

呉服淳二郎 17票

梶川幸太郎 15票

橋本あかり 12票

(以下略)

※得票数が同数の場合は、会員番号の早い順に記載した。

第7区 中 国(定数2名) 投票者19名

当 選 松崎 博子 14票

当 選 杉野 築 13票

次 点 仲村 拓真 4票

第8区 四 国(定数1名) 投票者9名

当 選 上岡 真土 7票

次 点 鈴木 章生 2票 ※3票に満たず

第9区 九 州(定数2名) 投票者12名

当 選 永利 和則 10票

当 選 山口 真也 9票

次 点 末次健次郎 1票 ※3票に満たず

◆選出理事会報告◆

上記役員選挙の結果を受けて、3月9日(日)、選出理事会をオンラインで開催しました。選出理事会では、会則第8条2(3)項にもとづく推薦理事候補者5名を選出し、通信評議員会に諮ることといたしました。推薦理事候補者は以下の5名です。(50音順、敬称略)

赤澤 久弥(大阪大学附属図書館)

今野 創祐(東京学芸大学)

川崎 千加(京都産業大学)

是住久美子(田原市図書館)

澤谷 晃子(大阪市立中央図書館)

◆通信評議員会報告◆

上記選出理事会での結果を受けて、通信評議員会を実施しました。通信評議員会では、推薦理事候補者5名の承認の可否を問いました(3月21日締切)。

その結果、評議員22名中21名から回答を得ました。(成立要件の過半数に達しており、通信評議員会は成立しました)。回答の結果は以下のとおりです。これにより推薦理事候補者は全員承認されました。

	可	否
赤澤 久弥	21	0
今野 創祐	21	0
川崎 千加	21	0
是住久美子	21	0
澤谷 晃子	21	0

◆評議員の繰り上げ当選について◆

上記通信評議員会の結果を受けて、先の役員選挙で関東ブロック評議員に当選された今野創祐氏の推薦理事就任が承認されました。これに伴い、青野正太氏が評議員に繰り上げ当選となりました。

【評議員】 第3区 関 東

当 選 青野 正太

◆2025-2026年度理事の役割分担◆

2025-2026年度の理事の役割分担を下記の通り決定しましたので、ご報告いたします。

理 事 長		原田隆史
事 務 局	事務局長	前川敦子
	担 当	松井純子
編集委員会	委員長	石川敬史
	副委員長	嶋田学
	委 員	澤谷晃子 是住久美子
研究委員会	委員長	日置将之
	副委員長	今野創祐
	委 員	赤澤久弥 川崎千加
国際交流委員会	委員長	吞海沙織
	委 員	赤澤久弥
図書館研究奨励 賞選考委員会	委員長	常世田良
広報委員会		赤澤久弥 井上昌彦 谷合佳代子
ブロックセミナー		川崎千加 谷合佳代子
障害者会員		澤谷晃子
出 版		松井純子
組織検討委員会	委員長	谷合佳代子
	委 員	井上昌彦 常世田良